

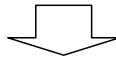
28 年度の研究

《昨年度の成果》

- 1 課題設定や学習形態の工夫
→ 発言意欲が高まり，挙手や発表できる子どもが増えた。
- 2 話型の活用
→ 友達の考えにつなげて話合いができるようになってきている。

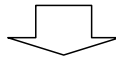
《昨年度の課題》

- 1 根拠を言える子どもが少ない。
→ 相手を納得させられる表現力が身に付いていない。
- 2 質問，反論できる子どもが少ない。
→ 友達の考えと自分の考えを比較して聞いていない。



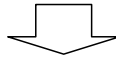
研究主題

対話で思考を深め合う授業の展開
～探求型授業における対話の相互連鎖をめざして～



研究仮説

共通性や相違点が明確になるよう授業構成や発問を工夫することで，子どもたちは意欲的に思考を深め合うようになるであろう。



1 教材分析	2 授業構成	3 学習形態	4 指導の工夫
・対話につながる発問やゆさぶる発問	・1時間の授業での話合いの設定回数	・グループの効果的な構成人数	・対話を考慮した指導案づくり